

札幌テレビ放送

事業の名称

やってみよう！！どさんこ防災プロジェクト
防災出前授業～災害発生！この情報、ウソ？ホント？編

共同で事業を実施した団体

北海道大学高等教育推進機構 奥本素子准教授（授業内容監修）

事業概要

「やってみよう！！どさんこ防災プロジェクト 防災出前授業」では、防災士の資格を持つ10名のアナウンサーたちが講師となり、これまで毎年3、4校の小中学校でオリジナル授業を実施してきた。

2025年度は、小学校高学年を対象に、災害発生時における情報の真偽を見極めて、自らウソやデマの拡散の当事者とならないようにするための対処法“災害情報リテラシー”を学ぶ内容を授業に盛り込み、3校で実施した。

【対象の学校】

<1校目>

開催日：2025年9月3日（水）

対象：室蘭市立海陽小学校 4～6年生 合計158名

時間：45分授業、授業終了後、避難訓練

<2校目>

開催日：2025年11月12日（水）

対象：函館市立大森浜小学校 4～6年生 合計193名

時間：45分授業

<3校目>

開催日：2025年11月13日（木）

対象：函館市立湯川小学校 4～6年生 合計129名

時間：45分授業

【授業内容】

① 地震や津波について学ぶ

授業を実施した3校はいずれも、切迫する『千島海溝・日本海溝沖地震』の津波浸水想定区域に立地している。そのため授業では地震や津波が発生する仕組みをクイズ形式で学びながら、揺れた後は高い場所へ速やかに避難し、自分の命を守る行動をとることの重要性を伝えた。



<授業の様子>

中でも1校目は2025年のカムチャツカ半島沖地震で津波警報が発令され多くの児童が学校へ避難した経験もあることから、その時の様子にも触れながら授業をすすめた。児童たちはクイズを楽しみつつも、真剣な表情で話を聞き、その後の避難訓練も緊迫感ある雰囲気の中で行われた。



<実際に出題したクイズ>

② 災害情報リテラシー

■伝言ゲーム

人から人へ伝わる情報のスピードと、SNSで広がるスピードの違いを体感するために伝言ゲーム(=写真㊸)を実施。伝言ゲームのような対面では時間をかけて少しずつ伝わる情報も、SNSでは一瞬で多くの人に広がる。その中には、間違った情報も含まれる可能性があり、デマはあっという間に拡散してしまうことを理解してもらった。



■デマを見抜くには…

2016年熊本地震時の「ライオンが逃げた」というデマのSNS拡散(写真㊹)を例にあげ、

- ・ 特に災害時は不安から人は情報を求める
- ・ 周りの人にも教えなくてはという使命感が働く

などの理由から誤情報が拡散されやすいと伝えた。

また、災害時やSNS上に関わらずデマにまどわされないために

- ・ この情報は正しいのか
- ・ 信頼できる発信元か

を自身で考え、確認する習慣が大切になると伝えた。特に「拡散したい」「誰かに言いたい」と思えた情報ほど注意が必要で、「保留」して立ち止まり確認することの必要性を強調した。



<まとめ>

- ・ 情報を疑う、確かめる⇒周りの大人にも聞いてみる
- ・ デマを拡散しない⇒自分が広めるべき情報か？

怪しいと思ったら自分のところでストップする勇気を持つ

事業の成果

■生徒からの感想

- ・ 学校に3メートルの津波が来るかもしれないと知っていたけれど実際にその高さを体育館で見ると急いで逃げなくてはいけないと思った。
- ・ デマだとわからずに友人にすぐに伝えてしまいそうなので、ちょっと考えてみからにしようと思う。
- ・ SNSの情報は間違っていることもあるので、すぐに信じないようにしたい。
- ・ 間違った情報を広めないことが大切。

■先生からの感想

- ・ SNSの使い方については、基本的には各家庭での判断に任せているので具体的な内容の授業は初めてだったが、生徒たちは熱心に聞いていた。教師にとっても大変勉強になる内容だった。
- ・ 災害時、デマの拡散者にならないことの重要性がしっかり伝わっていた。
- ・ 地震については授業で取り扱うが、情報リテラシーは学校の授業で教師が小学生に説明するのは大変難しいこと。ニュースの映像等を使って、わかりやすい言葉で説明してくれたので、生徒たちも無理なく理解できていた。

■担当アナウンサーの所感

- ・ 監修の奥本先生からの「小学生にはゲーム性を取り入れた教材が有効」「デマ拡散の背景に“善意”が関係する点を盛り込む」とのアドバイスをいただいた。そこで「伝言ゲーム」から入ることでメディアリテラシーという難解なテーマも身近に感じてもらえる授業に構築できた。
- ・ SNSの長所、短所を理解して、うまく付き合っていく方法を一人ひとりが考える契機となればうれしい。
- ・ 来年度以降、中学校からの授業要請にも応えるべく、内容をバージョンアップして災害情報リテラシーを伝える活動を継続していきたい。

以 上